

## 第6章 進捗管理

将来の事業環境や財政計画の収入・支出は、現時点での実績に基づいて算定していることから、今後の社会情勢によって大きく変化する可能性があります。そのため、本経営戦略は毎年進捗管理を行うとともに、3～5年ごとに見直しを行うこととします。

進捗管理の際には、「下水道事業のストックマネジメントのガイドライン」の業務指標や「経営比較分析表」の経営指標を活用することにより、定量的に評価していきます。また、経営戦略の内容と事業の実施状況が乖離している場合には、※PDCAサイクルを用いてその原因について把握・分析するとともに、現状に見合った内容へと見直しを図ります。なお、見直しを行った際には、見直し内容を公表することにより、事業の透明性を高め、健全な事業運営を行えるように努めていきます。



図6-1 PDCAサイクル

## 参考資料 用語集

### 【あ行】

#### ◇ 圧送管（方式）

圧送管（方式）は、自然流下方式で流すことが困難になった場合の下水道管布設方法です。ポンプの力を利用して低いところから高いところへ水を流す方式をいいます。

#### ◇ オーバーホール

機器類の分解・清掃・再組み立てを行うことで新品同様の性能状態に戻す維持管理作業のことです。

#### ◇ 汚水処理人口

汚水処理人口とは、下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の生活排水処理施設によって汚水排水を処理している人口を示すことが一般的ですが、本編では、特に下水道を使用して生活排水を処理している人口数を示しています。

#### ◇ 汚水量原単位

下水道の汚水排水には、住民の方がお風呂や台所など生活で使用する「生活汚水」、工場で使用する「工場汚水」、観光客が日帰り・宿泊で使用する「観光汚水」など用途に応じて様々な汚水排水が存在します。それぞれの汚水排水量を簡単に算出可能にするため、面積当たりの汚水排水量を設定した定数を汚水量原単位と言います。

### 【か行】

#### ◇ 開水路

水面を持つ水路のことを示します。一般的には、河川、用水路、排水路に見られる排水路上面に蓋がかかっていない水路のことです。

#### ◇ 管路改善率

（改善（更新・改良・維持）管路延長／下水道布設延長）×100により算出します。当該年度に更新した管路延長の割合を表した指標で、管路の更新ペースや状況を把握できます。

#### ◇ 管路老朽化率

（法定耐用年数を経過した管路延長／下水道布設延長）×100により算出します。法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表した指標で、管路の老朽化度合を示しています。一般的には、数値が高い場合には法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の改築等の必要性を推測することができます。

#### ◇ 企業債

施設整備などの費用に充てるために国や地方公共団体金融機構から借りた借金のことです。

◇ 企業債残高対事業規模比率

[ (企業債現在高合計－一般会計負担額) / (営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金) ] × 100により算出します。料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を示す指標です。

◇ 経常収支比率

(経常収益 / 経常費用) × 100により算出します。経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、事業の収益を占める指標の1つであり、100%以上であることが望ましいとされます。

◇ 経費回収率

[ 下水道使用料 / 汚水処理費 (公費負担分を除く) ] × 100により算出します。使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標であり、使用料水準等を評価することが可能となります。

◇ 健全率予測式

国土交通省の国土技術政策総合研究所が設定した予測式を示します。下水道管路の経過年数ごとの劣化状態の進行状況を表しています。

◇ 更生(管)工法

老朽化して機能が低下した下水道管の内面に補修を加えることで、下水道管を取り替えることなく継続使用する方法です。

◇ 固定資産

一般的に1年以上の長期にわたって使用又は利用する目的で保有する資産をいいます。

【さ行】

◇ シールド(工法)

下水道管を地下トンネルとして構築する工法の一つ。「シールドマシン」と呼ばれるトンネル掘削機で安全に地下を掘削・トンネルを築造する。開削せずに管路を繋げる非開削工法です。

◇ 施設利用率

(晴天時一日平均処理水量 / 晴天時現在処理能力) × 100により算出します。施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。

◇ 自然流下(方式)

一般的な下水道は、自然流下方式と呼ばれる方式で地下に管を埋設することが多いです。自然流下方式は、下水道管に勾配を付けて埋設することで、管の中を水が自然に流れる仕組みにしたものです。

◇ 使用料単価・汚水処理原価

使用料単価とは、有収水量 $1\text{m}^3$ あたりの使用料収入のことであり、汚水処理原価とは有収水量 $1\text{m}^3$ あたりの汚水処理費のことです。

◇ 従量料金

処理水量に応じて発生する料金のことをいいます。

◇ 推進（小口径管推進工法）

下水道管を地下トンネルとして構築する工法の一つ。管の直径700 mm以下のものを特に「小口径管推進工法」と呼びます。人がトンネルを掘るのではなく、推進機械が穴を掘り、開削せずに管路を繋げる非開削工法です。

◇ 水洗化率

$(\text{現在水洗便所設置済人口} / \text{現在処理区域内人口}) \times 100$ により算出します。現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標です。

◇ スtockマネジメント

持続可能な下水道事業実施のため、下水道施設全体を把握し、長期的な視点で施設の点検・調査、修繕・改善を実施、最適化することを目的とした手法です。

【た行】

◇ ダウンサイジング

現状と比較してサイズ（規模）を小さくすることで効率化やコスト縮減を図る手法の事です。下水道事業においては、人口減少に準じた施設や管路のサイズの見直しがこれに該当します。

◇ ダクタイル鋳鉄管

鋳鉄を改良して強度を高めたダクタイル鋳鉄を材料として使用した下水道管のことです。

◇ 長期前受金戻入

固定資産の取得に充てるために交付を受けた補助金等、繰延収益（長期前受金）として貸借対照表の負債の部に計上し、取得した固定資産の減価償却に見合う分を毎年度取り崩して収益に計上したものです。

◇ 独立採算制

皆さんに市へ納めていただく市民税などの税金ではなく、処理水量に応じて支払っていただく使用料収入などにより経費を賄うことを基本としています。

## 【な行】

### ◇ 内部留保資金

減価償却費などの現金支出を伴わない支出や収益的収支における利益によって、企業内に蓄えられる自己資金のことをいいます。

## 【は行】

### ◇ 普及率（下水道）

下水道を利用できる人口を行政人口で除した値です。

### ◇ 標準活性汚泥法

下水処理場に流れてくる汚水（下水道有機物）を微生物の力で生物処理する方法で、日本では最も一般的な処理方法です。汚水と微生物と空気を混ぜることで、汚水は微生物により分解され、水分と汚泥分になります。水分は、消毒され河川に戻されます。汚泥分は従来は埋立てに利用されていましたが、近年では建設資材の材料や肥料に有効活用されリサイクル率も高くなってきています。

### ◇ 樋門・樋管

雨水や水田の水などが水路を流れ、より大きな河川に合流する場合があります。合流する河川の水位が洪水などで高くなった場合に、その水が逆流しないように設ける施設です。このような施設のなかで、堤防の中にコンクリートの水路を通し、そこにゲート設置する場合、樋門または樋管と呼びます。一般的に構造が箱型構造のものと管構造のもので呼び方を変えていますが機能は同じです。

### ◇ 複式簿記

1つの取引について、それを原因と結果の両方から捉え、2面的に記録していくことにより、現金、土地、建物などすべての資産の動きや損益を把握する方法です。下水道事業においては、収益的収支と資本的収支の2本立てで記録しています。

### ◇ 法定耐用年数

地方公営企業法施行規則により定められた、減価償却計算を行うための会計制度上の年数です。法定耐用年数を超過すると「経年化資産」となり、更新の対象として区分けされます。

### ◇ ボックスカルバート

下水道用、地下道用などに見られる、コンクリート製の箱型暗渠構造物のことです。

## 【ま行】

### ◇ マンホールトイレ

マンホールトイレとは、災害時にマンホールの上に簡易的なトイレ設備を設置して迅速にトイレ機能を保持する仕組みです。災害トイレ、防災トイレなどと呼ばれることもあります。

### ◇ マンホールポンプ

マンホールポンプは、圧送管（方式）で使用するポンプが小規模の場合、下水道のマンホールの中にポ

ンプを設置する方式のことです。

#### ◇ 目標耐用年数

耐用年数とは、減価償却資産が利用に耐える年数を示しており、資産の種類・構造・用途などによって決められています。一方、目標耐用年数は、過去の実績等から期待できる耐用年数を別途設定したものです。

### 【や行】

#### ◇ 有形固定資産減価償却率

(有形固定資産減価償却累計額／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価) ×100により算出します。有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しています。数値が高いほど施設の老朽化の度合いも大きくなります。

#### ◇ 予防保全（による維持管理）

施設の機能を停止させないために、周期的な点検を行い、消耗・摩耗した部品の交換を行うことで、機器類の故障を未然に防ぐ事を目的とした管理方法です。

### 【ら行】

#### ◇ 流動資産

固定資産とは対照に、通常1年以内に現金化又は費用化される資産のことをいいます。

#### ◇ 流動比率

(流動資産／流動負債) ×100により算出します。流動資産の流動負債に対する割合を示します。下水道事業の財務安定性をみる指標であり、この値は100%以上でより高い方が、安全性が高いとされます。

#### ◇ 流動負債

企業の主目的たる営業取引によって発生した債務及び1年以内に支払の期限が到来する債務などをいいます。

#### ◇ 累積欠損金比率

[当年度未処理欠損金／(営業収益－受託工事収益)] ×100により算出します。累積欠損金の受託工事収益を除いた営業収益に対する割合を示します。累積欠損金とは営業活動の結果生じた欠損金が当該年度では処理できず、複数年にわたって蓄積したものをいい、この値は0%であることが望ましいとされます。

## 【英行】

### ◇ ICT活用

ICTは、情報通信技術の略称で、通信技術を活用した産業・サービスの総称です。下水道事業においては、情報の見える化・他分野との連携に活用する方針です。

### ◇ PDCAサイクル

効率的に事業を行うための継続的改善手法のことです。「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）→Plan（計画）→……」を繰り返すことによって、事業全体を従属的に改善していく手法の事です。